

【 姫 島 村 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語

<成果>

○観点別「話す・聞く」に関しては、県及び全国を上回っている。昨年度からの聴写の取組が結果に結びついている。

○観点別「書く」に関しては、若干上回っている。

<課題>

△教科全体で平均正答率は、全国（▲1.8）、県（▲5%）となり、全国との差は僅差である。

△観点別「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」が県平均と比べて10%以上低い。

△問題形式では、選択式・記述式は県平均から1～2%ほど下回った。短答式（漢字の書き問題等）が9.8%下回った。

<平均正答率が全国・県を下回っている問題>

△説明的文章の読み取りにおいて、文章の内容を的確に押さえ自分の考えを明確にして読む選択式問題の正答率が、全国（80.7%）・県（81.9%）に対して本校は（66.7% 全国との差▲14%）。

△記述式問題の正答率が全国（75.9%）・県（77.7%）に対して本校は（66.7% 全国との差▲9.3%）だった。説明文の目的に応じた読み方が課題として残った。【設問2（1）（2）】

△漢字を書くは、「かぎる⇒限る」の正答率が、全国（69.4%）・県（70.4%）に対して本校は（44.4% 全国との差▲25%）

△漢字を書くは、「かぎる⇒限る」の正答率が、全国（69.4%）・県（70.4%）に対して本校は（44.4% 全国との差▲25%）

△漢字を書くは、「かぎる⇒限る」の正答率が、全国（69.4%）・県（70.4%）に対して本校は（44.4% 全国との差▲25%）「かんしん⇒関心」の正答率が全国（35.6%）・県（36.8%）に対して本校は（11.1% 全国との差▲24.5%）だった。漢字の意味を押さえながら正しく漢字を使う指導が日常的に必要である。

【設問1四（1）】

△漢字を書くは、「かぎる⇒限る」の正答率が、全国（69.4%）・県（70.4%）に対して本校は（44.4% 全国との差▲25%）

△「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる」の正答率が全国（73.0%）・県（76.4%）に対して本校は（55.6%）全国との差▲17.4%）だった。ことわざの意味 理解と使い方の見直しが必要である。【設問3四】

△「書く」問題は、県の正答率を選択式の2問は、全国・県の正答率を10%以上上回っていたが、「自分の考えの理由を明確にして書く」記述式の問題が、全国（28.8%）・県（30.6%）に対して本校は（11.1% 全国との差▲17.7%）だった。日常的に国語科のみならず、根拠を基にして書くまとめや振り返りのある授業が展開されるべきである。【設問1三】

2 具体的な改善方策

小学校：国語

<授業内>

①読む力と自分の考えを持つ力の向上

・説明文の学習の導入時、短時間で内容を読み取り、話の概要や中心、それについての自分の考えを問う発問をする。(個別指導として)学習時間の導入時の音読の時間において、大切なところに線を引かせたり漢字や言葉の意味を抑えたりした個別指導を行う。

②書く力の向上

・学習時間の終末時に、課題に対するまとめを本時で学習したキーワードをもとに、自分の言葉でまとめさせる。振り返りにおいて自分の考えを記述させるようにする。(個別指導として)ワークシートを用意し、書く視点や方法を明確にする。

③指示や板書などの見える化を図る。

<朝のドリルタイム>

①文法の定着・主語と述語の理解。修飾語(連体修飾語・連用修飾語)、慣用句、ことわざについての問題に取り組ませる。(個別指導として)前の学年まで学習内容をまとめたドリル問題を活用し、基礎力を向上させる。

②既習漢字を中心に漢字練習のドリルに取り組む。(個別指導として)丸付けの際に、個別指導をするとともに、苦手な箇所の把握と解き方・考え方の指導をする。

③聴写に取り組み、聞き取る力の向上や集中力の向上を図る。

<家庭学習>

①毎日漢字ドリルを使って漢字練習に取り組み、現学年の漢字の定着を図る。(個別指導として)休日の家庭学習を個人に応じた課題に取り組ませる。

②言葉や文型についてのドリルプリントに取り組み、語彙や文の構成理解を図る。

※基礎基本並びに活用力の向上を狙って、東京書籍「データベース」の活用(個に対応した的確な問題・長期休業中)を図る。

【 姫 島 村 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数

<成果>

○算数全体での平均正答率を比較すると、全国を2.4%、県を2%上回った。

○観点別では、「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」ともに全国・県平均を上回った。

<課題>

△記述式問題の正答率が47.2%（全国：47.4% 県47.3%）と近似値ではあるが、設問内容によって課題がある。

△自分の考えを言葉や数、式を使って説明する文章を書くことが苦手である（証明問題）。

<平均正答率が全国・県を下回っている問題>

△二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く。

全国（52.1%）・県（49.1%）に対して本校は（44.4% 全国との差▲7.7%）【設問2（3）】

△減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く。全国（31.1%）・県（33.1%）に対して本校は（22.2% 全国との差▲8.9%）【設問3（2）】

△ $1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めているの式といえるのかを選ぶ。全国（47.0%）・県（45.0%）に対して本校は（44.4% 全国との差▲2%）【設問3（4）】

△何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求める式を書く。全国（68.6%）県（69.6%）に対して本校は（66.7% 全国との差▲1.9%）【設問4（2）】

長文からなる問題文を読み解き、文章や式で解答する問題である。文章読解力はもとより、順を追って解き明かしていく作業を苦手としていることがわかる。また、全体としては、全国・県の平均正答率をこえてはいるものの、個人個人においての課題が明確になり、補充学習や家庭学習での支援・指導が必要である。

2 具体的な改善方策

小学校：算数

<授業内>

①基礎基本の定着（既習内容の確認）

- ・「図形の定義や性質」「計算のきまりや工夫」「四則の混合した計算」について、復習の時間を確保する（導入時や振り返りで）
- ・本時で学んだ内容を振り返り、学習内容の定着を図る。
- ・授業内の「ふりかえり」の時間に抽出児童の評価（自己評価及び教師の見取り）を行う。理解不十分な児童には放課後補充学習（かっこチャレンジ放課後）で理解を図る。

②活用力の向上

- ・長文の問題からなる活用問題の指導の時間をもつ（教科書内単元にもある）。
- ・学習時間の「考える（自分の考えを持つ）」段階において、ワークシートや具体物操作、図や画像などを基に立式したり、説明を考えたりする時間をもち、解を求める方法の意見交流する時間を十分確保する。

③考えを整理する力の向上

- ・学習時間の終末時に、課題に対するまとめを本時で学習したキーワード（数学的用語等）をもとに、自分の言葉でまとめさせる。

<朝のドリルタイム>

①基礎基本の定着

- ・「小数の計算」「四則の混合した計算」「グラフの読み方」「割り算の計算」のドリル学習を計画的に実施する。
- ・前の学年までの学習内容を網羅した問題集に取り組む。
- ・丸付けをする際に、個別指導をするとともに、苦手な箇所の把握と解き方・考え方の指導をする。
- ・2人体制での指導体制を組む。

※基礎基本並びに活用力の向上を狙って、東京書籍「データベース」の活用（個に対応した的確な問題・長期休業中）を図る。

<その他>

- ①学校の休み時間、担任主導の塾形式で、わからないところの補充学習を行っている。
- ②PTA・地域との連携「かっこ塾」において、国・算・理の的確な問題集の選定と管理職による指導を行っている。

【 姫島村 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語

- 評価の観点の「読む」の正答率は、全国平均を4.7%上回っている。「読む」の各設問をさらに詳しく見ると、「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを持つ」という設問では13%、「文章の展開に即して情報を整理し、内容をとらえる」という設問では全国と同じ、「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ」という設問では0.1%、それぞれ全国の正答率を上回っている。
- 「話す・聞く」の正答率は、全国平均を18.9%下回っており、各評価の観点の中でいちばん低くなっている。特に「相手にわかりやすく伝わる表現について理解する」では23.5%、「話し合いの話題や方向をとらえて自分の考えを持つ」では21.9%、下回る結果となっている。
- 「話す・聞く」では、話し合いにおいてそれぞれの発言者の内容をとらえることに課題がある。「言い換えたり要約したりしていても、内容的には同じことを述べている」ということに気が付くことができない生徒が多い。そのためある発言者の意見が誰のどのような意見を受けてのものかということのをうまくつかめないという結果となっている。今後の学習指導の話し合い活動において、話し合いの参加者の興味・関心、情報量などを考慮しながら、相手の発言を具体的に言い換えたり、他者同士の発言を結び付けて話したりするように指導することが必要である。

2 具体的な改善方策

中学校：国語

- 「読む」学習においては、「根拠」を意識し情報を整理しながら内容をつかむように指導する。また、「書く」活動においても、自分の考えを支える「根拠」を明確にして書き、説得力のある文章を書くよう指導する。
- 補充学習では、基礎基本の定着を図る課題を扱って指導をする。
- 週末課題では、非連続型テキストと関連付けて文章を読ませる問題を扱い指導する
授業で学習したことの振り返りと定着ができるような課題や漢字・語句のドリルとなる課題を提出する。
- 様々な力を下支えするものとして、活字に親しむことが必要であるので、学校図書館を活用し、活字に親しませる指導をする。生徒自ら多様な図書資料を手取るようにするため、学校図書館の整備等、学習環境の充実を図る。

【 姫島村 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析

中学校：数学

- 「平行移動の意味」や「最頻値の意味」など基本的な知識は身につけている。
- 「見方や考え方」「技能」ともに全国平均を大きく下回っている。
- 「問題解決をするための根拠となることがらを判断すること」や「文字式を使って説明すること」が特にできていない。
- できる生徒と苦手な生徒の二極化が激しく、今年度から問題形式が変わり、苦手な生徒にとって何を問われているのかを理解することが難しかった。
- 全体的に、文章を読み取る力が弱く、問題に対応できていなかった。

2 具体的な改善方策

中学校：数学

- 3年生の内容とあわせて、基本的な計算練習と入試を意識した学習を行う。
- 補充学習では基礎基本の徹底を行う。
- 週末課題では、個々の進路に応じて幅広く入試問題を取り入れる。
- 授業内容を確認できるような問題とともに、入試【1】番の計算問題を繰り返し取り組む。
- 一律の問題だけではなく、それぞれの生徒に適した問題を準備する。

【 姫島村 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：英語）

1 調査結果の分析

中学校：英語

- 普段より授業中にクラスルームイングリッシュを用いて授業をしているため、教室英語を聞いてその指示の内容を選ぶ問題は正答率が高かった。
- リスニングについては内容（指示、会話、天気予報）を表しているものを適切に選択したり、全体的に正答率が高かった。
- 接続詞などを授業中に押さえながら学習しているため、接続詞を空所に埋めることがよくできていた。
- 与えられた情報をもとに説明文を書く問題では、3人称単数現在形の時制を適切に用いて肯定文、否定文を書くことができていた。
- 長文を読んで問いに答える問題では、長文を読み取る力がまだ不足している。そのため、授業中に教科書の本文を読み取る活動から長文を読み取る活動へと応用的な指導をし、長文を読み取る力をつけていく必要がある。
- グラフを見たり、資料の内容から適切な順序を答えたり、適切な選択肢を選ぶ問題では、グラフや資料から判断する力が不足している。これについても類似問題を解かせて慣れさせるとともに、応用的な問題を解かせていく必要がある。

2 具体的な改善方策

中学校：英語

- 既習事項の文法の復習をし、確認をしてから授業を進める。
- ドリル練習（反復練習）をして文法事項の定着を促す。
- 基本を確認する問題を最初にして、その後、活用問題を中心として出題する。
- 週末課題で把握した苦手部分を授業中に解説し、理解を促す。
- 既習内容の基本問題とともに、活用問題を必ず入れ、習熟の程度に応じて取り組めるようにする。
- 類似問題を定期テストなどに盛り込み、考える力をつけさせる。
- 単語や文法については授業中に帯活動（毎時間する活動）として取り入れ、できていない場合は休み時間などに個別指導を行う。

【 姫 島 村 】

平成 31 年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

【自己肯定感に関して】

△自分に良いところがあるかの問いに対して、当てはまると回答した児童は、22.2%（2名）で、県や全国の平均 40%前後に比べ低いことがわかる。明確な自己肯定感の確立が課題。

【先生に関して】

◎分かるまで教えてくれるに当てはまると回答した児童は、77.8%（7名）で、県や全国の 60%前後に比べ、高いことがわかる。先生を肯定的にとらえている児童が多いといえる。

【将来の夢に関して】

◎将来の夢や目標を持っているかの問いに対して、当てはまる・どちらかという当てはまると回答した児童は 77.8%（7名）で、県や全国に比べ 10%以上高かった。

【家庭学習に関して】

△平日の学習時間に関して、2 時間以上する児童は 0%（県 27.5%・全国 29.3%）、30 分以上 1 時間より少ないと回答した児童が 77.8%と圧倒的に多いことがわかる。家庭での学習時間の確保ができていないこと、学校からの宿題の質と量の未検討が原因だと考えられる。その他に、保護者自身家庭学習の重要性を理解できていないことも大きな原因だと考えられる。

【家庭での読書に関して】

△平日の読書の時間に関しての問いに対して、10 分より少ない 11.1%（1名）、全くしない 44.4%（4名）計 55.5%の児童が読書をほとんどしないことがわかる。（全国は計 34.3%、県は計 31.1%）

【学級生活に関して】

◎学級で決めたことに協力して取り組んでうれしかった経験がある児童 66.7%（6名）で、県や全国の平均より 20%以上高い。人が困っている時に助けられる児童は 55.6%（5名）で、県や全国の平均より 15%以上高い。いじめはどんなことがあってもいけないこととした児童は、100%（9人）で、県や全国の 85%前後に比べて高い。

【学校生活に関して】

○学校のきまりを守っている児童は 66.7%（6名）で、全国や県よりの 20%前後高い。

【地域への参画に関して】

○地域行事に参加しているかの問いに対して、当てはまる、どちらかという当てはまると回答した児童は 66.7%（6名）で、県や全国の平均 40%前後に比べると高い。盆踊りを含め、村の行事への参加が多いことが要因である。

【新聞に関して】

△新聞を読んでいるかの問いには、毎日読む・週に 1~3 回読む児童は 11.1%（1名）だった。8名はまったく読んでいない状況にある。

2 児童質問紙の調査結果をふまえての具体的な取組

(1) 自己肯定感を高める学級づくり

- ・「認め合い合い」「支え合える」学級集団活動
- ・生徒指導三機能「自己決定の場」「自己存在感」「共感的人間関係」を生かした問題解決的な授業展開
- ・特別活動において、達成感を感じられる成功体験の積み重ね

(2) 家庭学習、家庭読書のすすめ

- ・家庭学習の手引きや学校からのお便り、見直し期間の実施による家庭の意識の高揚を図る。
- ・曜日ごとの家庭学習の内容を全校で統一し、家庭での声かけなどによる協力を図る。
- ・取組の実態や傾向を学級通信等で保護者に知らせる

(3) 基本的な生活習慣の定着

- ・「モーニング読書」「無言清掃」の徹底により、落ち着いた集団生活の定着を図る。
- ・「チャイム着席」「授業の初めと終わりのあいさつ」などの徹底により、
- ・「かっこチェックカード」の取組により、家庭に、「早寝」「早起き」「朝ご飯」の意識を持たせ、見直しを図る。

【 姫島村 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

生徒質問紙

○学習に対する関心・意欲・態度

数学の学習については、「数学の勉強は大切である」「よく分かる」と回答している生徒は、全国・県平均値より高く、少人数授業による個に応じた指導の成果が表れている。しかし、平均正答率では全国・県平均値を下回っており、授業および補充学習・家庭学習・個別指導等を活用した学習内容の定着が課題である。

英語の学習については、「学校の授業やそのための学習以外で日常的に英語を使う機会が十分にあった」と回答している生徒は、全国・県平均値より高く、APUと連携した学習チューターの取組等の成果が表れている。しかし、将来積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと考えている生徒は全国・県平均値よりも低く、経験をもとにしたグローバル人材の育成も課題である。

「ふるさと科」（総合的な学習の時間）としての3年間の取組（「ふるさとを知る」「ふるさとから学ぶ」「将来のふるさとを考える」）が、地域・社会への関心の高さにつながっており、全国・県平均値を上回っている。

○規範意識・自尊感情

規範意識については、「学校の規則を守る」「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的に回答した生徒は、全国・県平均値を下回っており、学校生活を通して規範意識を高める取組が必要である。

自尊感情については、「自分にはよいところがある」と回答した生徒は、全国・県に比べて高い。

○学習の基盤となる活動・習慣

生活習慣については、「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問に対して肯定的回答をした生徒は100%であった。また、就寝時間における肯定的回答も全国・県に比べて高く、規則正しい生活習慣が身につけている傾向にある。

学習習慣については、「家庭学習の時間」「計画的に学習に取り組む生徒」は全国・県を下回っており、家庭と連携して家庭学習を充実させることが課題である。

2 姫島村の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- ・新大分スタンダードの視点および授業改善の5点セットにそった授業改善推進
- ・放課後等を活用した補充学習・個別指導の工夫・改善
- ・家庭学習習慣定着のため、家庭と連携した学習に向かう環境整備の推進
- ・進路学習と連動した学習意欲向上の取組の推進
- ・交流活動等実体験をもとにしたグローバル人材育成の推進
- ・規範意識を高めるための支援や場づくり

【 姫島村 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

○教科指導

算数の授業の中で習熟度別・少人数・TT指導を計画的に進めた。朝のドリルタイムや放課後や長期休業中の補充が学習等など個に焦点をあてた指導・支援を行ってきた。

国語の指導法については、基礎的・基本的な事項を定着させる授業や補充的な学習の指導に力を入れてきた。課題を明確にし、継続的な指導をしたことで成果が見えてきている。しかし、指導が不十分な内容も浮き彫りになり、今後の効果的な指導も求められる。また、発展的な学習や目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業については不十分などところがあった。

算数の指導法については、基礎的な学習や反復練習をする取組に力を入れてきたが、徐々に成果が得られるようになってきている。指導の質の向上が求められる。また、実生活における事象との関連をはかった授業を十分行うことはできていない。

総合的な学習（ふるさと科）での課題の設定からまとめ・表現に至る探求の課程を意識した指導、学級会でお互いの意見を生かして解決方法などを合意形成できるような話し合い活動等の実践が不十分であった。習得活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の工夫及び改善が今後も求められる。

言語活動については、国語科だけでなく、各教科・道徳・外国語・総合的な学習（ふるさと科）及び特別活動を通じて、学校全体での取組につなげていくことが課題である。

○学力向上

児童の学習状況については、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて話を聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守る）の指導が徹底できてなく、落ち着いた学習時間の状況がつかれていない。また、人との関わり方、コミュニケーションの方法等を含んだ礼儀が定着できていない児童も多く見られる。「考えを深めたり、広げたりする」「資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発言や発表を行う」ことが苦手な傾向にある。

学力向上に向けた取り組み・指導方法については、「新大分スタンダード」にそった授業展開の確立を図るためにさまざまな取り組みや指導法の工夫がなされていることがわかる。しかし、本校が校内研修で進める児童の学びに向かう力の育成をねらった話し合い活動の実践は十分ではなく、十分な成果が得られていない。

家庭学習については、習慣化を図るために教職員で共通理解を図り、児童や保護者に対して働きかけを行ってきている。全校で統一した取組を継続していく必要がある。

○学校経営

地域人材・施設の活用においては、保護者や地域の人々の協力を得ながら子どもたちの育ちを支援する取り組みを行ってきている。しかし、ボランティア等による授業サポートや離島ということもあり博

2 姫島村の学校質問紙の調査結果をふまえて

- 学力向上に向けた人的・物的支援
- 学校・保護者・地域とが一体となった子育て支援体制の充実
- 姫小スタンダードにそった問題解決学習やアクティブラーニングの推進
- 小中連携の推進と強化
- 教職員の授業力向上に向けた研修時間の確保と研修内容の充実

【 姫島村 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

中学校：学校質問紙

○教科指導

個に応じた指導については、数学及び英語の授業の中で少人数指導を十分に行ってきた。

国語科の指導法においては、目的や相手に応じて話したり、聞いたりする授業、書く習慣を付ける授業に力を入れるとともに、漢字・語句などの基礎的・基本的な内容の定着にも重点をおいて取り組んでいる。様々な文章を読む習慣を付ける授業については、朝読書指導や図書室の活用と関連付け指導している。

数学科の指導法においては、発展的・補足的な学習に取り組むとともに、実生活における事象との関連を図ったり、計算問題などの反復練習にも力を入れて指導している。

英語の学習においては、発展的・補足的な学習に取り組むとともに、英語を聞いて概要や要点をとらえたり、自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動に取り組んでいる。中学校教員の小学校への乗り入れ授業も行い、小中の連携を図っている。

○学力向上

生徒の状況については、私語をしないなど授業中の学習規律はほぼ整っており、グループ活動等も円滑に行えるが、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができているとは言い難い。

学力向上に向けた取組・指導方法については、「新大分スタンダード」に基づき、「1時間完結型」授業や「板書の構造化」に係る取組に工夫をしてきたことが分かるが、「生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開」「習熟の程度に応じた個別の指導」の工夫が更に求められる。

家庭学習については、各学年の目標学習時間を設定し生徒や保護者に働きかけを行ってきたが、家庭学習の内容や与え方、その評価・指導等に改善の余地がある。昨年度末より、「家庭学習の手引き」の見直しを行い、全家庭に配布し家庭との連携した取組につなげている。学期ごとの評価をもとに、「家庭学習の手引き」の周知徹底と効果的な活用をさらに工夫していく必要がある。また、家庭学習時間確保の阻害要因であるスマホやゲームなどの使用時間の決まりを徹底させることも喫緊の課題であり、家庭と連携した取組を行う必要がある

○学校経営

地域人材・施設の活用においては、職場体験学習や各種地域行事への参加、地域の人と関わりながら地域を学ぶ学習においては積極的に取り組むことができている。地域の方々やPTAも協力的で、部活動支援・学校行事の運営などにも関わることができている。その反面、学習支援は十分行えておらず今後の課題である。

水曜日・土曜日等を利用した「協育」ネットワーク連携促進事業に係る取組は、計画的に実施できている。

2 姫島村の学校質問紙調査の結果をふまえて

- 「新大分スタンダード」に基づく、生徒指導の3機能を意識した問題解決的な授業展開の工夫と個別指導
- 保護者と連携した家庭学習の充実に係る取組強化
- 小学校と連携したESDの視点からの教育活動の推進